

(前ページのつづき)
田崎雅元会長 佐野委員、よろしくご協力をお願いします。
ほかに御意見なり、御質問なり。

国民の主体的参画を促すしくみの具現化が問題

青山理恵子委員 今回の御質問とお答えにあわせて、7ページに本
当に書いておられる。国民の積極的参画の促進
という形で、「主体的・積極的参画を促すしくみの具現化を促す」
という形で、「主体的・積極的参画を促すしくみの具現化を促す」
という形で、「主体的・積極的参画を促すしくみの具現化を促す」
という形で、「主体的・積極的参画を促すしくみの具現化を促す」

国際的・国家的視点に立った十分な審議を

正野寛治委員(三菱化学(株)取締役会長) 三菱化学の正野でございます。
本日初めてこの席に出席させていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。
一言意見を要望させていただきます。存じます。

今、大崎委員から御指摘ございました。化学物質の規制・管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に

今、大崎委員から御指摘ございました。化学物質の規制・管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に

JCS S制度の普及は十分といえるか

上田大宏委員(財日本品質保証機構理事) 日本品質保証機構の
上田と申します。
私どもは、先ほどの審議官の(説明の中にありました平成5年
からスタートしたJCS S制度において、校正事業を担当して
おり、いわゆる国のものを提供するというシステムがスタート
した時から、その一翼を担った者でございます。

よりワーカーなもの、そして本の中に役に立つ一つの
制度を作り上げて行きたいと思っておりますので、よろしくお願
いします。
田崎雅元会長 どうもありがとうございます。

JCS S普及の障害を取り除く

原山保人審議官 恐らくきょう参加されている方の中でも、上田
委員からお話のあったJCS Sというものがどういう仕組みかとい
うのを御理解いただいている方も多いかと思えます。そのぐ
らい一般の方にはJCS Sマークなどに比べても目につかない形
の仕組みです。

計行審は縦割り行政を統括するプロデューサーに

宮崎緑委員(千葉商科大学政策情報学部助教授) この審議会に入
っていただきありがとうございます。勉強させていただきます。
改めて、計量というものが外交貿易、国際関係の基礎としてい
かにか重要かというところを痛感しております。

今もいろいろ例が出ていますけれども、例えば京都議定書の問
題にしても、遺伝子組換え作物の問題にしても、BSE(狂牛病)
の問題にしても、国際的な視野で考えていくときに、計量という基礎
が大きな意味を持っている、それがきちんと認識できないと国家と
して立ち行かなくなるといえるような場面がたくさんあるという
ことを考えていただきたいと思っております。

今もいろいろ例が出ていますけれども、例えば京都議定書の問
題にしても、遺伝子組換え作物の問題にしても、BSE(狂牛病)
の問題にしても、国際的な視野で考えていくときに、計量という基礎
が大きな意味を持っている、それがきちんと認識できないと国家と
して立ち行かなくなるといえるような場面がたくさんあるという
ことを考えていただきたいと思っております。

そのときに、つまりまらぬ例を挙げておられるので、そうい
うことには同意いたしますが、安心という感覚を醸成する担
保は、先ほどもお話しが出ていますように、スーパーでお肉を買
うときに、バックしたお肉が正確にそのグラム数があるかどうか
という点に対する興味と、あるいは生命とか健康とかに直接に
関わってくる環境物質のような、あるいはナノテクノロジーのよ
うな微細な場面での計量とかです。これは場面、場面という
考えでいかなければいけないと思っております。安心という感覚を
担保できるものが、例えば文化にもかなり深根差していると思
うんですね。

いくのではなくて、理念とか構想とか戦略という違う角度から
の大きなタンスを二つ軸として提供していく考え方も必要なの
ではないかと思っております。
実現に当たっては、いろいろなことを言うて申しわけないんです
が、各官庁の縦割りの障害、弊害というものを、これまであった
と思うんですね。同じような検査を各官庁が同じようにやって、同
じレベルの中の違うところを調べているか、あるいは医療であ
るとか、農産物であるとか、さまざまに役所がかかわっている
ところになると、必ずしも同じ基準で動いているかどうか、ある
いは何を大事にしているのか、どうい物理量の正しい正確さとい
うものが大事だと思っているのか、いろいろなことが統一されて
いるのかどうかという問題も出てくると思っております。

安心・安全のつなげ方についてコメントを

原山保人審議官 一つ目の国際標準は、ISO9001でございますが、
JISですとか、こういった標準といつては、英語で恐縮です
が、ドキュメンタリー・スタンダードでございます。それと一つ
つ、ここで議論しているようなものさしの基準みたいなものを、
メトロロジ・スタンダードと言った。スタンダード・レファ
レンス・マテリアル、標準物質、同じ標準と言いますが、文字
に書かれたような標準という世界、ISO/IEC等であるよ
うな世界と、本物の物質的な標準というものがござります。

前者のドキュメンタリー・スタンダードについては、先ほ
どもISO17025みたいなものを申し上げさせていただきましたが
ながら、我々も先ほどのR・H S規制を念頭に盛んにあります
たが、我々も先ほどのR・H S規制を念頭に盛んにあります
たが、我々も先ほどのR・H S規制を念頭に盛んにあります
たが、我々も先ほどのR・H S規制を念頭に盛んにあります

後者の安全と安心の二つに乖離があるという問題について
は、このように形をいくと、より安全というものが安心につながる
んだというコメントをこのようにもいただきました。大変ありが
たいと思っております。
先ほども必ずしも国じゃなくてもという話が宮崎先生からありま
したけれども、JISマーク制度がまさにそういう切りかえを
やったわけでございます。民間の認証機関を国が国際レベルに
のつとめて認定するんですが、最終的にそれぞれの企業におい
てJISマークをつけていくというのは民間の認証機関を判断す
るということになります。

その際はマークのもとにだれが認証したのかという責任を明
らかにして、従前以上にだれが責任をもつてこれについてオーケー
したのかということも明らかにすることで、こういう形で国際的な流れとい
うのはあるんです。
そういう方法も一つの安心のあり方かなと思っておりますが、い
れにしても、このようにやり方がいいのかわからないことについて、
JISマークをいただける限りは、お願いいたします。

難しい中小企業のISO取得

田畑田男委員(財日本環境測定分析協会顧問・名誉会長) 日本
環境測定分析協会の田畑でございます。
きょう御説明いただいた計量行政の新しい方向性について、私
は非常にタイムリーなときに言えたと思っております。この中

で三つほど意見を申し上げます。
一つは、信頼性の確保という点について言えば、私たちは実
際の化学分析のデータを提供するための立場でございます。信
頼性の確保という点については、人の能力による要件が非常
に高いと考えております。この点については、人の能力の判定を
どうするかというところを、これもでも技能試験をまいた
らいてやっています。もう一回伺いたいところか、技能試験は年に3回
くらいやっているわけでございます。

μD先行に慎重、社会的信頼、秩序の維持

矢橋有彦委員(日本電気計器検定所理事) 私は日本電気計器検
定所の矢橋有彦でございます。
私から一点、御要望を申し上げます。もちろん、私
もこの際、新しい計量制度を検討することについては大変時宜を得
たと思っております。

たまたま先ほどのお話にもございましたように、計量制度は社
会の基盤でございますので、いわゆるμD先行、スローガン先
行ということではなく、あくまでも社会的信頼感とか秩序の維持
ということが懸念が出ていまして、慎重に行う必要があると思
っております。

今、大崎委員から御指摘ございました。化学物質の規制・管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に

今、大崎委員から御指摘ございました。化学物質の規制・管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に

今、大崎委員から御指摘ございました。化学物質の規制・管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に
関する考え方が国際的な広がりの中で急速に進化している。管理に

(次頁以下につづく)